



主催：同志社大学 ライフリスク研究センター
共催：同志社大学 社会福祉教育・研究支援センター

イギリスにおける公的扶助と最低生活費の計測

Social Assistance and the Measurement of
Minimum Cost of Living in the United Kingdom

発題者 ジョナサン・ブラッドショー（ヨーク大学教授）

討論者 山森亮（同志社大学経済学部准教授）

※質疑応答のみ通訳あり

時間 2009. 7. 18（土） 14：00～16：30

参加費無料
当日参加OK

場所 同志社大学 今出川キャンパス「至誠館」地下3教室

要旨：

ベバリッジの意図によると、公的扶助は限定的で残余的（residual）なものであるべきであった。しかし、イギリスにおいて所得調査を伴う給付（income-related benefits）の割合は、1948/49年には全給付額の13%であったのが2007/08年には34%にも上っている。

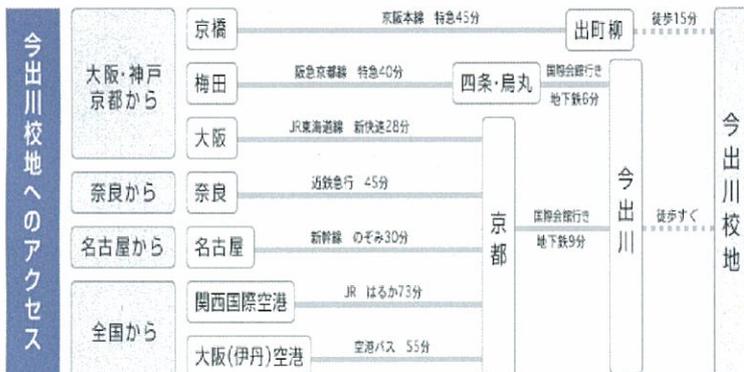
報告ではその原因を、①ベバリッジ計画に内在的な欠陥、②その実施過程における欠陥、③労働市場の変化にわたって考察する。

次に公的扶助給付の適切さ（adequacy）を、ラウントリー財団プロジェクトで開発されたイギリスにおける最低所得基準（Minimum Income Standard for Britain, MIS）をもとに検討する。そこでは、年金生活者に比べて若い世代の独身者や子のいないカップルで現実の給付額とMIS基準額との格差が大きいことが示される。

その他、公的扶助給付の置換率（replacement rate）の国際比較なども試み、イギリスの公的扶助（給付額）の評価をおこない、日本へのインプリケーションについても言及する。

交通機関案内

地下鉄「今出川」駅3番出口から徒歩3分



懇親会について

時間：17：30～19：30 場所：同志社大学寒梅館1F Hamac de Paradis 会費：3千円 申込締切：7/17(金)

連絡先：同志社大学 ライフリスク研究センター 事務局

Tel 075-251-3728

E-mail ji-ksie3@mail.doshisha.ac.jp